

### 事業概要

- ◆ 近年、インドネシアでは平均寿命の向上に加えて死因が変化しており、がんによる死亡率が増加している。また、中間所得層の急増に伴い質の高い医療サービスへのニーズは高まってきている。
- ◆ 一方、ODA等により先端医療機器は導入されているものの、検査技師や診断医師の不足等により、がんの早期発見ができていない。また適切ながん治療を施せる医療機関も少なく、まだ外来化学療法は殆ど実施されていない。
- ◆ 本事業では、がん患者の早期発見及び高品質な治療サービスを提供する日本式化学療法センターの事業化を目指し、日本の画像診断サービスと日本式化学療法の実証調査を実施。

### これまでの成果

#### 1. 画像診断・遠隔読影の導入実証

- 合計145件を遠隔画像診断を実施し、セカンドオピニオンを提供した。

	CT	MRI	PET	MMG	合計
合計	43	58	2	42	145

- 42件の乳がん検診(マンモグラフィ)の有所見率は26%であった。(対象者の平均年齢48.6才)

分類	人数	割合
カテゴリー1 異常なし	28	66.7%
カテゴリー2 良性	3	7.1%
カテゴリー3 良性、しかし悪性を否定できず	7	16.7%
カテゴリー4 悪性の疑い	1	2.4%
カテゴリー5 悪性	3	7.1%
合計	42	100.0%

#### 2. 日本式化学療法の導入実証

- 外来化学療法として日本で一般的に行われている治療プロトコル・レジメンの策定、抗がん剤準備から患者への薬剤投与、そして副作用対策までの一連の工程を日本式化学療法の運営システムとして導入実証。
- 2名の実患者に対して実施。以下は一例。

	乳がん	術前病変縮小療法
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>従来のレジメンでは化学療法1回あたりの輸液量が3,000ccと多く投与時間が720分。</li> <li>不十分な被爆対策、副作用対応</li> </ul>	
実証事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬剤の前日準備</li> <li>レジメン見直しによる治療時間の短縮</li> <li>日本式看護ケア、患者教育の実施</li> </ul>	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬剤ミキシング時間の短縮(120分から60分)</li> <li>投与時間の短縮(720分から360分)</li> <li>防護服の簡素化、セルフモニタリングシートの作成等</li> </ul>	

